



# リレートーク #198



## 医療改革と経済同友会

**稲葉 延雄**

リコー  
取締役専務執行役員

私がいつも診察をお願いしている先生は、診察だけでなく最新医学の進展状況も解説してください。生活習慣の改善がいささか不徹底でも、最近は薬でメタボ関連の検査数値が向上するらしく、意志の弱い私としては大変ありがたい情報を得たりする。

最新医学の講義が終わると、今度は先生の方から、日本経済の見通しやアベノミクス、異次元緩和の意味合いなどを矢継ぎ早に質問される。この時間帯になると、先生は私のことを先生と呼ばれるので、二人で互いに「先生」と呼び合う奇妙な会話になってしまう。横にいる看護師さんが思わず吹き出したりする。

医学の世界では物事の「真」「偽」が比較的明快なようで、先生の説明も論理的である。一方、私の方も真剣にお答えするのだが、すっきりとした解説にならず、先生も十分には納得されていない様子である。次の診察の際、質問内容を若干変えて再び尋ねられるので、納得されていないことが確認できる。そんなときには、医学に比べ、経済学はどうしてこうも分かりにくいのか、とへきえきする。先生には「病原菌やウイルスはうそをつかないので、病気や治療効果の予想はその分業なのでしょうが、人間はうそをつくので、経済全体の動きであれ政策効果であれ、予測することはえらく大変なのですよ」などと言いつつをしたりする。

考えてみれば、先生は医師であると同時に病院経営者であり、経済動向のフォローが欠かせないのであろう。経済同友会に参加して、経営者の皆さんの議論に加わってはどうか、と水を向けてみるが、診察その他で忙しく、それもかなわないとのことである。こういう方々が、会員にならないまでも、ホームページなどを通じてもっと気楽に本会の議論に参加できる方策はないものであろうか。どのような形であれ、病院関係者がわれわれ経営者と直接語り合う機会がもっと多くなり、互いの誤解を解くことができれば、医療改革に対する医師会の抵抗も少しは和らぎ、岩盤規制の撤廃も見えてくるのではないかと、思ったりしている。